

OMM JAPAN 2016にご参加ありがとうございます。今年も多くのチームから楽しいコースだったとの声をいただき嬉しく思います。一方で、とても辛く大変な思いをしたチームもあるのではないかと推測しますが、それもまたすばらしいOMM体験です。

さて、今年の大会ではイギリスのOMMでコントローラ（公平性、安全面、環境面などの問題を第三者の目で監査する役員）を務めるDave Chapman氏に事前に現地を見てもらい、OMMらしいコースにするためにはどうすればよいのかというアドバイスを受けました。残念ながら今年は日本の事情を理解してもらうことにその多くの時間を費やしてしまい、コース設定に関するより有益な情報共有を十分行うことはできませんでしたが、それでもストレートのコースでは彼のアドバイスをもとによりよりレグを配置することができたことに感謝します。

なにより今年は3回目にしてようやく自分でも満足のいくコースを組むことができました。過去2回は何かしらの事情があり当初の計画から大きくコースを変更しなくてはいけませんでした。今回はほぼ当初の構想通りのエリアを利用でき、多くの課題を詰め込んだコースを展開することができました。ストレートではほぼすべてのレグにルートチョイスがあるコースを組むことができ、スコアでは難易度の異なる多くのポイントを設定することができました。紅葉と好天もあいまって皆さんの印象に残るコースになったことを願ってやみません。地元との交渉を進めてくれた仲間たちに感謝します。

一方で地元の人にしかわからない特別な土地へのケアの不足があり、いくつかのご意見をいただいたことも確かです。高山では高山の、里山では里山の、特有の問題を解決できるようなコース設定の繊細さもコースプランナーチームには求められます。

当日については好天にも恵まれ、コースの短縮や危険個所の閉鎖などを検討することはありませんでした。コース上の問題としては110番コントロールについて、コントロールフラッグがなくSIステーション機材のみが設置されている状態で、ストレートのトップ数チームに少しの混乱を与えてしまったことを謝罪しなければなりません。直前まで複数の目でチェックできる体制の構築を検討します。

さて、本大会のコースをほぼ確定したあとに私自身がイギリスのOMMに参加しました。そこで体験したOMMのコースは、タフネスさとナビゲーション、変化する環境への対応などまさに山の総合力を問う課題がバランスよく配置されていました。日本でまったく同じようにすることはもちろん困難ですが、今回のJAPANのコースはトレインの特徴からややナビゲーションに特化したコースになってしまったことを少し反省しながら帰国しました。

特にイギリスではストレート（英語ではライナーコースと呼ぶ）もスコアもコントロール数が少なく、より長い時間を移動に費やします。特にスコアなどは一見すればかなり大味で、これでは初心者はあまり点を取れないだろうという印象のコースでしたが、しかし「OMMはジャパニーズロゲイニングではない」ということが1つの答えなのだと思います。今年から夏にOMM LITEというイベントも始まったことから、楽な楽しさはそちらに

譲り、秋のOMM JAPANでは苦しい楽しさを含むOMMらしさを追及していくことが、我々に課された挑戦であると認識しています。コースに関する具体的な課題としては縮尺の変更、地図精度の見直し、それによって実現できるコースの広域化を挙げておきます。

最後になりましたが、私の粗い目をすすり抜けた多くの誤りをチェックしてくださった競技チーム、まだまだ暑く藪の濃い時に本番より長いコースを踏破した試走チーム、大町の山に何度も入りどんどん増える道を幾度となく調査しに行ったコースプランナーチームのボブこと谷川友太にあらためて感謝します。

コースプランナー

小泉 成行 (Shigeyuki KOIZUMI)